

府高退教通信

NO.269

発行
〒543-0021

大阪市天王寺区東高津町七一十一
府教育会館7F 大阪府高教内
大阪府立高等学校
退職教職員会

TEL 090-1227-5142
(末光)

FAX 06-6768-1675

能登半島地震で露呈した自民 党政権の劣化 寺西文夫（長野）

1月1日午後4時10分、M7.6の能登半島地震が起った。2020年以降群発地震が発生し、政府の有識者検討会は今回の震源地でM7.6の地震を想定していたが、住民に注意喚起していなかった。阪神大震災時の村山首相は2日後、東日本大震災の菅首相は翌日に現地入りした。岸田首相は14日後という通常では考えられない遅さで現地入りし、90分も現地にいなかった。被災者に寄り添う気持ちもなく、裏金問題をうやむやにして首相の座を守ることしか関心がない。阪神大震災では2月28日に1兆円規

日本には災害対策専門省庁がなく経験や知識が蓄積されず、災害対策は市町村任せになっている。トンプダウンで必要物資を送るプッシュ型支援も備蓄が不十分で、満足に水や食料も支給できない。大勢の被災者が体育館などの冷たい床で雑魚寝しているのは先進国では日本だけ。同じ地震国のイタリアでは家族ごとに簡易ベッドのあるテントで温かい食事が提供され、トイレ・シャワーのコンテナが設置される。国際赤十字は1998年に災害や紛争被害者の権利として、1人あたり最低3.5㎡のスペースの確保、トイレは20人に1つの割合で男女比は1対3とするスフィア基準を定めたが、日本は全く対応できていない。

志賀原発は稼働停止、珠洲原発は住民の反対で造られなかったことは不

第239回府高退教「短歌を楽しむ会」

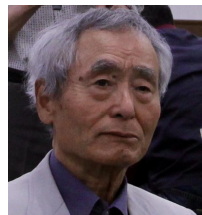
(2023・12・11)

曲残し彼はいい日に旅立ちぬ帰り来よ魂河内長野 高橋貞雄
読むほどに人間の条件の迫り来てわが生き様の軟弱を衝く 川上憲一
木枯しの初めて吹いた報道に関連の歌口ずさむかな 池永孝
同級の名前は戦さ映してる盾くんやら征治くんやら 菅原正義
久々の旧友との出会い認知症トントンカン を応ふる痛まし 福谷美智子
瀬田川の沙にやすらふ都鳥琵琶湖の水位 瓜生野
ぐんと下がりて
おっちゃん結婚してるのと三年生聞かれて 答える嫁さん先に死んじゃった 月岡秀夫
氏子絵出神楽再開テント張りしめ縄づくり イチヨウ色づく 正重哲美
十ちがう卒業生とランチする皆の来し方に 心引かれし 山尾邦子
かねてより訪ねて見たき五條にて八十路の 二人旅を楽しむ 佐々木有馬

第241回「短歌を楽しむ会」は3月11日(月)午後2時、府教育会館ななめ横ガット・ネロにて。3月4日(月)までに、下記宛てに、いずれかの方法でお送り下さい。作者名を明記して下さい。
fax 072 299 7064 外山(瓜生野) または郵送で
〒590-0143 堺市南区新檜尾台3-3-13-403
外山安龍

松田皓平さんを悼む

連山 豊(池島)



前府高退教副会長の松田皓平さんが昨年12月27日胆管がんのため、逝去されました。連山豊さんより追悼文をいただきました。

松田皓平さんの訃報に接し、私と同年でもあるだけに悲しさと寂しさに耽っています。つい最近まで退教幹事会で机を並べていたのに...

1966年、和泉高校に転勤して2年目、泉南4校に「隔週二部制定時制設置」問題が発生し、対策会議に松田さんと同席したのが最初の出会いでした。

その会議での松田さんの発言は、論点を整理した理路整然としたもので説得力がありました。その姿に感心したのと同時に、少し寄りつき難い感じもしたのを覚えています。会議後の「呑み屋」では笑顔で打ち解けた会話ができ、少し安心しました。その中で「僕は豆腐が大好きで、将来豆腐屋を開店することが夢や」と。残念ながら夢は叶わなかったですね。

府高教時代は、ゴルバチョフ政権初期の旧ソビエト旅行や父母と共にヨーロッパ教育事情視察旅行に同行し、退教時代は多くの行事に参加して行動を共にしました。そんな中で、松田さんは一見堅苦しくむずかしい人に見えますが、ユーモアを解する優しい心の持ち主であることを随所で見受けました。

また研究熱心でもあり、韓国の孫禎睦氏の著書『日帝強占期 都市社会相研究』の翻訳本(669頁)等があります。

長いお付き合いをして頂き感謝すると同時に、ご冥福を祈ります。天国で大好きな豆腐を「あて」に大好きなワインをお楽しみください。 合掌

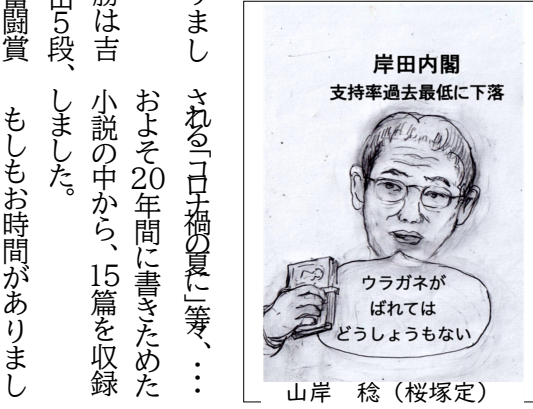
「銘酒を嗜む会」を振り返って
鶴巻重治(清水谷)

1月19日(金)初めて参加しました。参加者は全体で22名。以前からの伝統行事ながらコロナの影響で中断して、今回が4年ぶりの開催と聞きました。



伊丹の銘酒「鴻池郷村」、手作りのユズ酒が差し入れられ、堪能しました。もちろん、ビールやワイン、ソフトドリンクもあるので日本酒が苦手な方やアルコールがダメな方も楽しめると思います。あまり酔いが回らないうちに聴いた女性の会のシャンソン演奏は、たった5人(失礼!)とは思えない声量と迫力で圧倒されました。鶴彬の反戦詩を題材にした歌など2曲の披露。ただの宴会ではありません。料理は、山上俊夫シェフが二日ばかりで用意された豪華なものでした。一人分ずつ盛られていて、(紙皿でなく)陶器なら、それだけでじゅうぶん会費二千円の値打ちがあります。他に手作りの鯖押し寿司やおでん等々もありましたが、酔いのせいかよく覚えていません。おいしくいただいたことは確かです。いちごうさま

ザイ・もめ事も、実際に会うて食べながら(御馳走なし、ノナルでも)対話すれば、良い方向に向くのではないでしょう。軍備を増強しても平和は訪れません。(拙けすぎですね。)



山岸 稔 (桜塚定)

思い起こせば、府高教教研など宿泊教研では、酒肴を持ち込んで車座になり語り合うことはつきものでした。いごそうは無かったけれど、その場で他職場の人や初対面の人も、食べながら飲みながら真剣な議論も他愛ない話もした覚えがあります。親睦を深めるとともに、蒙を啓かされた経験もあります。貴重な機会でした。「食物を分け合って、共食するのは人類の特徴。そこに共感が生まれる」という意味のことを元京大総長 学術会議元会長の人類学者である山極寿一さんの著作にあったと思います。

とても寒い1月26日、教育会館7階で、退教の囲碁大会が9名の参加で行われました。私にとっては久々の退教の囲碁大会の参加でした。対戦はトーナメント形式ですが、一度負けても再度できるように工夫もされていきました。

緊張の中にも心地よい対面の対局！
対局後の一杯は格別！
入江 宏
(門真なみはや)

とても寒い1月26日、教育会館7階で、退教の囲碁大会が9名の参加で行われました。私にとっては久々の退教の囲碁大会の参加でした。対戦はトーナメント形式ですが、一度負けても再度できるように工夫もされていきました。

碁盤に向き合っている対局は最近なかったので、緊張感がありますが、何とも言えない気持ちのいいものでした。特に、対局中のおしゃべりで、相手の方が、自分の初任の学校の先輩であったことがわかったりして、お互いに知っている先生の話題などで、対局中にもかかわらず、心が和む瞬間もありました。

大熱戦の結果、優勝は吉田3段、準優勝は小山5段、敢闘賞は織田2級、奮闘賞は畠田3段でした(敬称略)。

終わった後、近くのお店で軽く一杯も、話がはずんで、また格別でした。退教の囲碁大会ですが、現役の先生の参加も大歓迎ですので、お知り合いの方がおられましたら、お声かけください。

終わった後、近くのお店で軽く一杯も、話がはずんで、また格別でした。退教の囲碁大会ですが、現役の先生の参加も大歓迎ですので、お知り合いの方がおられましたら、お声かけください。

終わった後、近くのお店で軽く一杯も、話がはずんで、また格別でした。退教の囲碁大会ですが、現役の先生の参加も大歓迎ですので、お知り合いの方がおられましたら、お声かけください。

短編集 『巨艦の幻影』を出版しました
国富智子(布施工科)

このたび、短編小説集『巨艦の幻影』を出版しました。表題作「巨艦の幻影」は、1940年前後の軍港の町を舞台に、何かにつけ「なして?」「なして?」と問う少年の存在が、戦時下社会のおかしさを浮き上がらせていく話です。フィクションですが、数々の資料を読み込み、舞台となっている広島県呉市にも足を運び、5年がかりで完成させました。

このたび、短編小説集『巨艦の幻影』を出版しました。表題作「巨艦の幻影」は、1940年前後の軍港の町を舞台に、何かにつけ「なして?」「なして?」と問う少年の存在が、戦時下社会のおかしさを浮き上がらせていく話です。フィクションですが、数々の資料を読み込み、舞台となっている広島県呉市にも足を運び、5年がかりで完成させました。

このたび、短編小説集『巨艦の幻影』を出版しました。表題作「巨艦の幻影」は、1940年前後の軍港の町を舞台に、何かにつけ「なして?」「なして?」と問う少年の存在が、戦時下社会のおかしさを浮き上がらせていく話です。フィクションですが、数々の資料を読み込み、舞台となっている広島県呉市にも足を運び、5年がかりで完成させました。

他に、戦争教材から軍国主義教育のいびつきが見えてくる「慰問袋」、授業アンケートの数値結果によってランク付けられる高校教師たちの、心理の屈折を描く「折れ線グラフ」、自立のためとして介護サービス「卒業」させられた高齢女性、自立する力を失っていく「絹子の行方」、複雑な成育歴を背負った高校生が、国のコロナ政策に翻弄

他に、戦争教材から軍国主義教育のいびつきが見えてくる「慰問袋」、授業アンケートの数値結果によってランク付けられる高校教師たちの、心理の屈折を描く「折れ線グラフ」、自立のためとして介護サービス「卒業」させられた高齢女性、自立する力を失っていく「絹子の行方」、複雑な成育歴を背負った高校生が、国のコロナ政策に翻弄

他に、戦争教材から軍国主義教育のいびつきが見えてくる「慰問袋」、授業アンケートの数値結果によってランク付けられる高校教師たちの、心理の屈折を描く「折れ線グラフ」、自立のためとして介護サービス「卒業」させられた高齢女性、自立する力を失っていく「絹子の行方」、複雑な成育歴を背負った高校生が、国のコロナ政策に翻弄

他に、戦争教材から軍国主義教育のいびつきが見えてくる「慰問袋」、授業アンケートの数値結果によってランク付けられる高校教師たちの、心理の屈折を描く「折れ線グラフ」、自立のためとして介護サービス「卒業」させられた高齢女性、自立する力を失っていく「絹子の行方」、複雑な成育歴を背負った高校生が、国のコロナ政策に翻弄

映画評
「生きる」ことの意味を考えさせてくれる最近の映画を紹介します
仲森明正(渋谷)

月に一本以上は映画館で映画を観ています。昔の映画もいけれど、今の映画もいい。困難をかかえつつげなげに生きる人々に正面から向き合い、「生きる」ということの意味を考えさせてくれる映画を四本紹介します。

月に一本以上は映画館で映画を観ています。昔の映画もいけれど、今の映画もいい。困難をかかえつつげなげに生きる人々に正面から向き合い、「生きる」ということの意味を考えさせてくれる映画を四本紹介します。

月に一本以上は映画館で映画を観ています。昔の映画もいけれど、今の映画もいい。困難をかかえつつげなげに生きる人々に正面から向き合い、「生きる」ということの意味を考えさせてくれる映画を四本紹介します。

①『怪物』
(是枝裕和監督)

②『月』
(石井裕也監督)

③④は次号

③④は次号

地方の小都市で起こった雑居ビル火災事件をきっかけに、ぶつかりあうシングルマザーと担任教師、小学五年生の二人の子どもたち。三つの異なる視点から、現在の学校の現実と子どもたちの世界にせまる。子どもたちには独自の世界があり、大人が勝手に解釈して壊してはいけないことを

地方の小都市で起こった雑居ビル火災事件をきっかけに、ぶつかりあうシングルマザーと担任教師、小学五年生の二人の子どもたち。三つの異なる視点から、現在の学校の現実と子どもたちの世界にせまる。子どもたちには独自の世界があり、大人が勝手に解釈して壊してはいけないことを

地方の小都市で起こった雑居ビル火災事件をきっかけに、ぶつかりあうシングルマザーと担任教師、小学五年生の二人の子どもたち。三つの異なる視点から、現在の学校の現実と子どもたちの世界にせまる。子どもたちには独自の世界があり、大人が勝手に解釈して壊してはいけないことを

地方の小都市で起こった雑居ビル火災事件をきっかけに、ぶつかりあうシングルマザーと担任教師、小学五年生の二人の子どもたち。三つの異なる視点から、現在の学校の現実と子どもたちの世界にせまる。子どもたちには独自の世界があり、大人が勝手に解釈して壊してはいけないことを